

善水新聞

行發日七十二月一
定価 毎部五銭
電話 八〇一
（刊休日曜日祭曜日）
寄五六五八〇一

現下の時局に鑑み 醫人の覚悟と要望

福島縣醫師會醫政部長 松村 鐵郎

四、疾病豫防に關する對策
(1) 結核に關する豫防並に治療
國民體位の低下を招來し、人的資源を奪はざるは正に結核に關しては現に政府及各種團體組合等に於て嚴重なる對策を講じつつあるも、其の成績を見るべきの少くその要望は、豫防に關しては現に政府及各種團體組合等に於て嚴重なる對策を講じつつあるも、其の成績を見るべきの少くその要望は、

由來我が國に於ては都市農村を通じて結核病に關しては患者も家族も之れを秘密裡に於て看護する惡習を有し爲に却て蔓延力を増大せしむる傾向がある。故に最も正確なる豫防の効果を收む方法としては先づ全國醫師總動員を以て豫防醫學の見地に立脚して、期診斷の實を擧げ醫師たる者に一人の結核患者なりとも診斷せば結核豫防法により必ず義務として其筋に届出をなす警察署の力を借り傳染病豫防指導班を組織し、保健所員、協力し、其の班員をして結核患者並に家族等と直接訪問し治療上豫防上の事項を指導し、患者に對しては出来る限り各地のつつかく療養所或は醫院、病院へ入院せしむる方法を講じ、かつ健康者として時時早く健康國民に隔離せしめ、車に務め治療するに於ては全國を通じて出来る限り各地方に大なる療養所(國費を以て)を増設し、可及的早期に於て患者を療養所に集約せしめ、完全な診察の下に其の治療を計り、一般國民に對しては國民總動員の意味を以て各種團體及び醫師團と協力して從來に倍して一層結核の豫防並に傳染に關すると思ふ。

赤井樂師 詣りて

大和田 水 明

○千社札あせし羅漢や北風しく
○水雨しよく羅漢の顔の猛々し
○紙石打ても羅漢の顔面に
○鳩の飛んでし羅漢のうろたへ
○取捨の千社札に春日や羅漢像

「何に？」
「流れちました」
「何處へ？」
「暗くて、薩張り切りませぬ、何しろこれだけ冷たき、手は自由が利かぬわい……」
「無理もない、小六は両手を口に當てて、温かい息を吐いてゐる。水がどん／＼と落ちてゐる。水がどん／＼と落ちてゐる。水がどん／＼と落ちてゐる。」



戰捷迎年

珠雲 小野 務平

旭日噴騰宿霧晴
胡天民亦浴恩榮
皇軍邁進步擧捷
津浦呼萬歲聲

講談

どくろく

林 李兵衛作
金子 七郎 書

「二體これはどうした譯」
中腰になつた刑部が、浸水個所を探し求めてゐる。
「阿しな船が古いもので御座すから底板に隙があつたのかも知れませんが」
「では早速手當をして、船尻がよからう」
「へま、手當云つたところで、水をかい出すより外見へる。船は次第に沈み始め、水が冷たいやうに小六の體が自由が利かぬ。」「
「且那、歌目ですせ、仕方ないが、歌目をして、おのれが死ななう」
「歌目だ、船をこらして、おのれが死ななう」

北川外科
電話 四六四
本市新川町

井坂醫院
電話 五五九番
本市田町(元合津醫院跡)

阿部石炭店
電話 三三七番
平市 前

各種特價販賣
電話 三三七番
平市 前

近眼老眼亂視眼用
玉屋眼鏡店
電話 六四〇番
平市 二丁目

友都株式會社
電話 一七七番
平市 三丁目

給任募集
電話 二四〇番
平市 二丁目

木村外科醫院
電話 三〇九
本市六丁目(橋際)

中野齒科醫院
電話 五〇九番
平市田町(松月堂向)

昭和人絹錦工場
電話 一七〇番
平市南町一六番地

大和田醫院
電話 一七〇番
平市南町一六番地

高久病院
電話 五三三番
平市 二丁目

婦人科 五十嵐雄二
電話 三六九番
平市新川町

耳鼻科 專門
電話 一七〇番
平市南町一六番地

高久病院
電話 五三三番
平市 二丁目

華公生
本効力
電話 三〇九

山野邊薬局
電話 六六八番
平市五丁目

根本醫院
電話 三三四番
平市南町五二

新車のお知らせ
電話 二一七番
平市 二丁目

紳士の喫茶店
電話 七〇二番
平市銀座通

